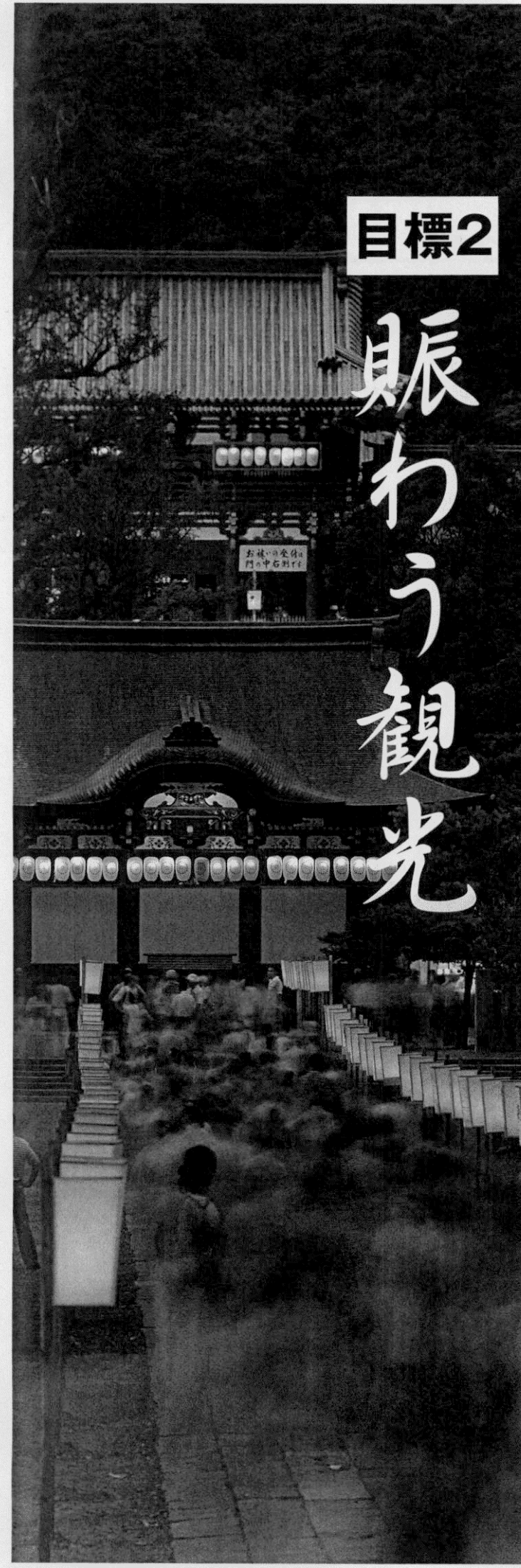




目標2

賑わう観光

賑わう観光とは

鎌倉の個性を生かしながら、観光を通じた活気あるまちづくりを促進することにより、賑わいの創出とまち全体の経済が潤うことを目標とします。

背景

現状

鎌倉の観光は、宿泊する魅力が少ないことや、宿泊施設が少ないことなどから、他の主要観光都市と比較して、宿泊比率が極めて低くなっています。このように宿泊客が少ないために、夜になるとまちの賑わいが急速になくなるほか、年間の入り込み客数に比べて消費額が少ないといわれています。

また、観光消費額を低くしている要因には、地場産業の停滞も指摘される中で、事業者は、観光による経済波及効果が明確でないために、観光産業等の目標を立てることが困難な状況ともなっています。

この他にも、参加者が楽しみ、観光客と市民が交流できるイベントが少ないことや、商店、飲食店などが期待不足であったことも一部の観光客から指摘されています。

課題

観光を通じて鎌倉の個性を生かした、活気あるまちづくりが必要です。

観光による経済(観光客の消費、市内企業への波及)を活性化し、まち全体が潤うしくみをつくる必要があります。

施策の方向性

① 観光拠点の整備

まちの賑わいの核となる場所を開発、整備します。

事業名

事業内容／事業計画

マーケットプレイスの検討

魚市場、レストラン等の集まった活気あるマーケットプレイスを、漁業の拠点整備に合わせて調整・検討します。このマーケットでは、主に地場の海産物や農産物の販売が考えられます。また、市民と観光客が共に地場産品を購入できる「市」の開設についても検討します。

※漁港施設整備事業（腰越漁港改修及び周辺環境整備事業）

鎌倉らしい駅舎の創出

まちの核となるＪＲ、江ノ電等の駅舎が改築される場合には、鎌倉らしい個性のあるものとなるように、アイデアを広く募集するなどの方策を関係機関に要請します。

※《(仮)古都中心市街地総合整備構想》鎌倉駅周辺地区の整備

② まちの賑わいの演出

まちの集客力を高めるための演出を企画します。

事業名

事業内容／事業計画

きもの観光客等の募集

まちに彩りを添えるため、きもの姿でまちを歩く観光客を募集するなど、広く衣装に視点を置いたイベントを検討します。例えば、期間を限定し、市内着物店と連携する方法も考えられます。実施にあたっては、きもので歩ける環境づくりも必要です。

事業名**事業内容／事業計画****花のまちづくり
キャンペーン**

四季折々の花を活用した花のまちづくりを考えます。花種等については、県立フラワーセンター、市内園芸店等との連携・協力が必要です。

**観光行事の見直し、
活性化**

鎌倉まつり等、現在、行われているイベントを、より魅力あるものに見直します。見直しにあたっては、企画、運営方法への市民参加を含めて再考するほか、寺社を舞台にしたものや、海浜の有効利用の視点から、海を会場にしたイベントも考えられます。
○観光行事への助成

③ 飲食店・物販店の充実、近代化

魅力的な店舗・商店街づくりを奨励、支援します。

事業名**事業内容／事業計画****飲食店・物販店の改装支援**

魅力ある店舗は観光資源にもなるため、その改装を支援します。資金面の支援として、「中小企業施設等近代化資金」「小口事業資金」等の活用を図ります。
※中小企業融資制度の充実

事業名

事業内容／事業計画

モデル商店街制度の創設

魅力ある商店街づくりに役立てるため、商店街の参考となるモデル商店街を設定し、重点的な整備を進めます。

※《魅力ある商店街づくりの推進》モデル商店街制度の創設

④地場産業の振興

地場産業・地場産品を育成し、観光客の来訪による経済効果を高めます。

事業名

事業内容／事業計画

鎌倉みやげの開発

鎌倉みやげの新商品として、優れたものには、商品化に向けての資金の援助を行うなど、鎌倉みやげの新しい商品の開発を促進します。

※《商品開発など物産に対する開発研究》商品開発支援事業

鎌倉彫紹介施設の充実

伝統産業の振興のため、鎌倉彫の紹介をする施設の充実を図ります。施設は、鎌倉彫の歴史、作品の展示、実演、体験、休憩等の機能をあわせ持ったものが考えられます。

※《商品開発など物産に対する開発研究》伝統鎌倉彫振興事業

事業名

事業内容／事業計画

観光記念グッズの作成

季節のイベントや通常は公開されない施設、物産等を掲載・紹介した観光記念グッズを作成し、広告・宣伝・販売を検討します。例えば、カレンダーをはじめ、鎌倉のイメージ入りTシャツ、写真集、はがき、テレホンカード、案内カード等が考えられます。

観光による経済波及効果の調査・研究

観光に関する経済効果の波及構造・効果を明らかにするための調査・研究を進めます。
※産業振興計画(ビジョン)の策定

⑤ 滞在型観光の推進

宿泊して楽しむ観光の魅力を創造するとともに、日本人にも外国人にも利用しやすい宿泊施設の充実、宿泊客の増大を図ります。

事業名

事業内容／事業計画

宿泊施設の誘致・充実

宿泊を伴う観光は、観光客にとって鎌倉の魅力を十分体験できるものであり、地域経済にとっても効果が期待できます。そこで、滞在型観光を推進するため、多様な需要を考慮した宿泊施設の誘致・充実、及び宿泊者数の拡大を図ります。
※滞在型観光の推進への検討

事業名

事業内容／事業計画

滞在型観光のPR

公共交通機関、旅行代理店等とタイアップし、滞在型観光をPRします。
※滞在型観光の推進への検討

泊まって楽しむ観光の企画・開発

夜の観光ルートづくり、早朝の見どころの発掘など、泊まって楽しめる観光の企画・開発を進めます。例えば、寺社等に要請しながら、期間を限定したライトアップ等を行うなど、夜の鎌倉の演出が考えられます。
※滞在型観光の推進への検討

⑥ コンベンション参加者への対応

会議等で本市や近隣市町を訪れた国内外の人々の、鎌倉観光への需要の増大を図ります。

事業名

事業内容／事業計画

コンベンション参加者を対象にした観光客誘致

国際観光振興会、コンベンションビューロー等と連携し、横浜市内、湘南国際村等のコンベンション施設の利用者を対象に、多方面にわたって鎌倉の魅力をPRするなど、観光客誘致を推進します。



目標3

憩う観光

憩う観光とは

観光しながらホッとひと休みしたり、休憩できる場があれば、市民と観光客のそれぞれが、あるいは相互にコミュニケーションできるまちになると考えます。

鎌倉が、訪れる人々や市民にとって、のんびり、快適に過ごせる場所にすることを目標にします。

背景

現状

観光客の受入れ体制の中で、公衆トイレの不足、ごみの散乱によるまち並みの汚れが強く指摘されており、特に、観光客による散乱ごみは、市民生活にも影響を与えています。

また、市民や観光客が、まちを歩きながら「ひと休み」する場所が少ないのが現状です。

課題

観光地としての美化、快適化を図るとともに、観光客にもより良い環境への関心を喚起することが必要です。

市民と観光客が共有できる憩いの場を、高齢者、障害者等の利用も配慮しながら整備することが必要です。

施策の方向性

① 憩いの空間整備

観光客や市民が鎌倉を散策するとき、ホッとひと休みできる場所を整備します。

事業名

事業内容／事業計画

ポケットパークの整備

観光客だけでなく、市民も利用できる公衆トイレ、ベンチ、観光案内板等の情報提供施設などをできるだけ一体化した、ホッとひと休みできる憩いの空間の整備を進めます。また、現在の公共施設を、上記の視点から利用する方法も検討します。

※ポケットパークの整備

自然満喫空間の整備

海浜、ハイキングコース等自然に親しむ場所の整備を進めます。

※鎌倉中央公園の整備／第1工区(都市緑化植物園)を平成9年度開園

※(仮)夫婦池公園の整備

※(仮)六国見山森林公園の整備／整備に向け準備

② 公衆トイレの整備

鎌倉の観光地としての評価を高めるような、さわやかで清潔、快適な公衆トイレの整備を進めます。

事業名

事業内容／事業計画

公衆トイレの整備

観光客、市民のニーズを考慮して、市全体の公衆トイレの配置計画をたてます。建設、改修に際しては、車いす利用者や多くの人々の利便性、周辺環境の整備をあわせて考慮します。維持管理、清掃については、使用頻度に応じた柔軟な対応ができるよう

トイレの一般使用協力店の募集

にします。建設主体は、市に限定せず、寺社、交通機関、商店等と提携しながら費用負担、維持管理の方法を研究します。また、トイレ利用者の負担、マナー向上の視点から、有料トイレも検討します。

※公衆トイレの整備／新設3か所

○公衆トイレの維持管理

新たな公衆トイレの建設が困難で、観光客などからトイレの要望が多い場所については、民間の商店・飲食店等に一般使用の協力を要請していきます。維持管理、清掃の方法、費用負担や周知の方法についても検討します。

※トイレの一般使用協力店の検討

●観光ごみへの対応

観光客によるごみの発生を削減すると同時に、まちなか、ハイキングコース、海浜でのごみの散乱を防止するため、観光客に収集拠点までのごみの持ち帰りを呼び掛けるとともに、より有効な収集方法を検討します。

事業名

事業内容／事業計画

観光ごみの削減方法の検討

観光ごみを発生源から減らすための方法を、事業者を取り込みながら検討します。また、空き缶を集めてもらう仕組みづくりやごみを捨てにくい環境づくりについても研究します。

※ごみの減量化・資源化の推進

○ごみの不法投棄の監視

事業名

事業内容／事業計画

くずかごの適正配置

観光客の動線、観光客数等を考慮しながら、拠点場所の検討を含めてくずかごの配置計画をたて、収集拠点までのごみの持ち帰りを呼び掛けます。ごみの収集方法については、観光客の密度によって、収集時刻、収集回数等を検討します。

観光ごみの分別収集の促進

現在、3か所に分別収集のくずかごが設置されていますが、その他の箇所についても、分別収集できる体制を研究します。また、商品を販売する際の、分別排出についてPR、指導を進めます。

※観光散乱ごみの拠点回収事業

○廃棄物のリサイクルの支援・実施

④ 快適な観光地への啓発

快適な観光地となるよう、環境への配慮、散乱ごみの防止等を多くの人々にPRして、環境にやさしい観光地をPRします。

事業名

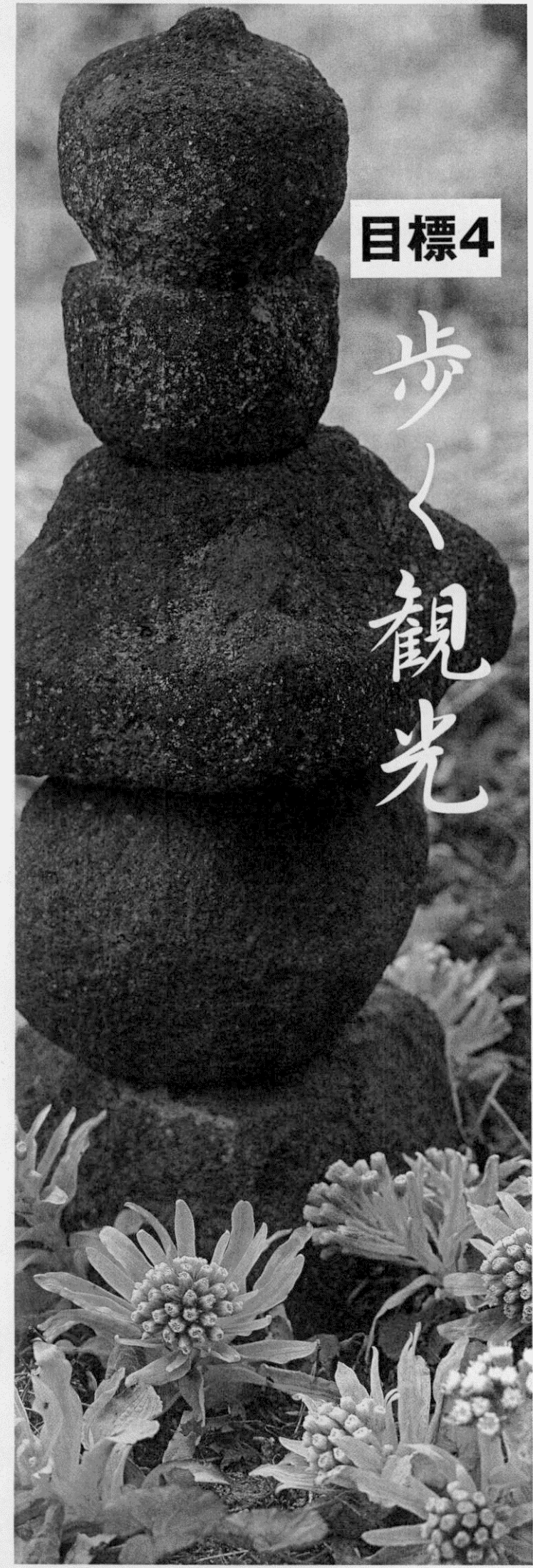
事業内容／事業計画

観光地美化の呼び掛けの充実

ごみのポイ捨て禁止やトイレの使い方マナーの向上などにあわせて、自然保護やごみの減量化・資源化など環境へのやさしい配慮を観光客にPRします。

※観光地美化の特別キャンペーンの実施

○まち美化統一クリーンデーの推進



目標4

歩く観光

歩く観光とは

鎌倉は、歴史的遺産や自然にふれたり、買い物を楽しんだりしながら、のんびり、ぶらりと、おしゃれに散策してほしいまちです。

このため、鉄道・自家用車など様々な交通手段で鎌倉を訪れた観光客が、歩いて観光したくなる環境を、ハード・ソフト両面から整備していくことを目標にします。

背景

現状

観光客、市民、事業者いずれからも主要観光施設周辺の交通渋滞が指摘され、特に市民にとっては生活上の支障をきたしているとともに、環境の悪化が指摘されています。

また、観光客からは、鎌倉を散策するための情報や公共交通手段が十分でないという指摘が多いのが現状です。

課題

市内の交通システムの再構築が必要です。

観光地を歩いてまわりたくなる仕掛けづくりが必要です。

歩きたくなる情報提供の充実が必要です。

施策の方向性

① パーク・アンド・ライド(ウォーク)の検討

鎌倉へ様々な交通手段で訪れた観光客が歩いて観光できる、一つの手段として、パーク・アンド・ライド(ウォーク)を検討します。このため鎌倉地域を中心に、周辺部分へ駐車場を整備し、鎌倉地域内は公共交通機関や徒歩等で観光施設をまわるようにする必要があります。

事業名

事業内容／事業計画

鎌倉地域への自動車交通の抑制

鎌倉地域への観光目的の自動車交通を抑制するため、周辺地区への駐車場建設の検討を進めます。

※江ノ島電鉄の新駅設置の検討

※地区交通計画の策定／平成8年度から鎌倉地域で実験予定

観光循環バスの運行等の検討

鉄道で来た、あるいは自家用車やバスを駐車場に置いた観光客が交通拠点から主要観光施設をまわることのできる循環バス運行などを検討します。交通手段については、自転車を含め環境に配慮した、まちの賑わいにも貢献できるものを研究します。

※バス活性化システム整備への支援

適正な駐車施設の配置

地域の特性を考慮しながら、商業用途と観光用途の駐車場の適正な配置を検討します。

※駐車場整備事業の推進

新たな交通手段についての検討

鎌倉の特性を踏まえて、既存の公共交通機関と連携した新たな交通手段について調査・研究を行います。

※新交通システムの検討

*パーク・アンド・ライドとは、本来は近郊の住宅地から自家用車で最寄りの鉄道の駅まで行き電車に乗り継ぐ移動方式をいい、このほか、バスに乗り継ぐ場合にはパーク・アンド・バスライドともいいます。ここでは、鉄道の駅や周辺駐車場まで来た観光客が、電車やバスに乗り換えたり、歩いたりする移動方法の検討を、まとめて「パーク・アンド・ライド(ウォーク)の検討」ということとします。

② 歩く道・ハイキングコースの整備

歩いてまわりたくなるような道づくりをハード・ソフト両面で推進します。

事業名

事業内容／事業計画

「かまぐらの道」の選定

自然、歴史、文化等のテーマ性をもったモデルコースの選定を進めます。選定にあたっては市民や観光ボランティア等の意見も取り入れながら検討します。

※「かまぐらの道」の選定と整備

道の整備

歴史を感じさせるまち並みや景観と調和のとれた歩く道の整備を進めます。

※生活道路の整備（拡幅・改良）

ハイキングコースの整備

観光客、市民が共に豊かな自然に親しむことのできるハイキングコースの整備を進めます。

○ハイキングコースの清掃

③ 観光案内の充実

交通手段の選択のための情報、歩いて楽しめるための情報を充実します。

事業名

事業内容／事業計画

観光案内板の整備

総合・地区案内板、観光ルート板など各種観光案内板の改修を進めると同時に、「かまぐらの道」やハイキングコースの案内の整備を進めます。整備にあたっては、景観との調和、わかりやすさ、外国語による表示、デザインの統一性、新たな表示技術の導入などを考慮します。

※各種観光案内板の整備／総合案内板2基、地区案内板2基、ルート板50基

観光案内書の充実

楽しんで歩くことができる案内書を充実します。

(創る観光「充実した観光案内書の作成」を参照)

観光駐車場案内の整備

観光客をスムーズに誘導するため、観光駐車場案内の整備を進めます。

※駐車場整備事業の推進

交通情報の提供

観光客が効率的に観光できるように、FM放送等を利用しながら道路情報、公共交通機関の情報等の充実を図ります。



目標5

もてなす観光

もてなす観光とは

私たちが他都市へ観光に行った際、住民から親切にされたときは大変うれしいものです。そこで、鎌倉を訪れる観光客をあたたかく迎えられるまちになるよう、市民・事業者・行政が「もてなす」意識を高めることを目標とします。

背景

現状

鎌倉に住むすべての市民が、観光客を自分たちの生活の中で、必要不可欠と考えているわけではなく、かえって交通渋滞、ごみの散乱、騒音等の原因になり迷惑であるという意識を持っている人もいます。

一方、一部の観光客からは、商店・飲食店の価格や、接客態度などに対する不満も指摘されたりしています。

また、ボランティアによる観光ガイドが活発化していますが、全体に組織化されていないため、各団体によって対応も異なっています。

課題

市民が観光客をあたたかく迎えると同時に、事業者も接客やサービス提供において、観光客に十分な満足感を与えることのできる体制を整備することが必要です。

施策の方向性

① 観光ボランティアの育成

市民と観光客の接点を円滑にするため、市民のほか、鎌倉を愛する人々にも参加を呼び掛ける中で、観光ボランティアの充実と質の向上を図ります。

事業名

事業内容／事業計画

観光ボランティアの拡充

現在活動している観光ボランティアの団体を組織化し、国内外観光客への観光案内のほか、イベントの企画・運営、観光地の美化等を行うなど、活動の強化を要請します。また、高齢者の生きがいづくりとともに、若い人の参加にも重点を置いて、観光ボランティアの拡充を目指します。
※観光ボランティアへの支援

観光ボランティアの養成

観光ボランティアを対象にした研修会を実施するなど、その質の向上を図ります。
※観光ボランティアへの支援

観光ボランティアのシンボルマークの作成

観光ボランティアの活動を人々に知ってもらうため、視覚的にわかりやすいマークを作成し、身につけてもらうことを検討します。
※観光ボランティアへの支援

② ホームビジット・ステイの推進

外国人等の来訪者に対して、鎌倉の歴史や文化を知ってもらうための体制を整備します。

事業名

事業内容／事業計画

ホームビジット・ステイの拡充

ホームビジット・ステイを観光ボランティアの一つと捉え、その充実を呼び掛けます。また、災害等の非常時には、被災した観光客の受入先としての位置付けも検討します。

③ 観光関連の人材育成

市民・事業者に観光に対する認識を深めてもらうとともに、今後の観光施策の充実に向けて、観光に精通した人材を育成します。

事業名	事業内容／事業計画
観光ビジネス講座の開設	観光客の満足度は、人によって差があるものの、観光産業に従事する第一線の人々が与える印象によるところが大きいといえます。このため、観光産業に従事する人々を対象にした講座を開設するなど、そのレベルアップを図ります。
観光関連講座の開設	観光に対する認識を深めてもらうため、市民を対象にした講座等を開設するなど、観光に精通した人材の育成を図ります。

④ もてなす意識の向上運動

観光客に対する市民のもてなす意識の向上を呼び掛けます。

事業名	事業内容／事業計画
もてなす意識の呼び掛け	市民・事業者向けのポスター・パンフレット等により、観光客をあたたかく迎えることを呼び掛けます。

3.推進体制の整備

本計画で示した5つの目標を達成するためには、各事業計画の着実な推進を図ることが必要です。このためには、次に掲げる推進体制を整備することが不可欠であると考えます。

① 市民参画のもとでの事業の推進

本計画を推進するためには、様々な分野において市民に期待するところが大きいといえます。例えば、観光イベント等への企画、運営の段階からの参加、鎌倉みやげの開発、また観光ガイド等のボランティアなど、市民参画のもとで事業の推進を図ることが求められます。

そのためには、観光に対する市民の理解と協力のもとに、幅広い層の市民が参画しやすい体制の整備を進める必要があります。

② 関係団体・事業者等との役割分担と協力

観光に関する施策は広範囲にわたることから、各事業計画の実施主体としては、行政、関係団体、事業者等が考えられ、それぞれが協力して事業を推進することが求められます。

特に、社団法人鎌倉市観光協会をはじめとする関係団体、事業者、寺社の果たす役割は重要となっており、事業の実施にあたっては、それぞれの役割分担のもとに、お互いの協力関係をさらに強化していく必要があります。

③ 行政内部での総合的、横断的な事業の推進

今後の行政は、鎌倉の観光都市としての特性を踏まえ、観光の視点を各分野に取り入れてまちづくりを進めていくことが求められています。また、各事業計画を具体化する際には、担当セクション間との連絡・調整が不可欠であることから、行政内部では、総合的、横断的な視野をもって事業を推進する必要があります。

④ 国・県・周辺市町村等との連携

国・県・周辺市町村、その他の関係機関とは、各事業計画を推進する上で、各面にわたって重要な関係を持っています。特に、周辺市町村とは、それぞれ観光の魅力は異なるものの、より一層連携することで、従来にない施策の展開を図る必要があります。

⑤ 財源の確保

各事業を計画的に推進するためには、市の安定した財源の確保が必要です。また、国・県等関係機関に対しては、財源の確保に向けて積極的に支援を要請していく必要があります。

⑥ 計画の執行管理と見直し

本計画を達成するためには、各事業の執行状況を的確に把握することに加え、鎌倉を取り巻く社会情勢の変化を見ながら、状況に即した内容に見直すことも必要です。



再生紙を使用しています。

発行 平成8年4月
鎌倉市市民活動部観光課
鎌倉市御成町18番10号
TEL.0467-23-3000
制作 株式会社プランニング・コーツ
写真協力 勝原範夫